

# 賀正

## 東白川

# 新年のことば

新春特集号

行 茂 郡 民 館  
兼 泉 村 公 刷 所  
岐阜川 印 刷  
東白川 印 刷  
今

## 新年のことば

### 東白川村長 河田勘市



村自治発展に御協力をお願いいたします。

新しい一陽来福と共に昨年を振り返り、一年の計は元旦に村民の皆「在り」との古人の金言にさんと共らつて、過去を反省し、新に健康でしい気持ちで出発したいと存光栄あるじます。

新春を祝 大豊作の後をうけた昨年福でできた度畜業界は、春未曾有の凍したことを霜害を被り、憂慮したのであります。農家の各位の生産努力が向上と、たゆまざる申し上げ、技術の向上と、たゆまざる努力が順調ならざる天候のさんには、支配を克服し、良い成果をあらゆる収め得られたことは、誠に分野に於喜びにたえない次第であります。

およそ、生産の増強は公私経済に至大の影響を及ぼすものであつて、六割以上を占める本村農家の経済力の増大は村内全般をうるおし、ひいては村を興す原動力であると確信すると共に生産性向上が強く叫ばれているとき、新しい年を迎え確固たる農業経営計画を樹立し、その万全を期し本年度も優秀な成果を挙げられることを期待するものであります。

あわただしい昨年中において、幾多の問題があつたのでありますが、とりわけ町村合併問題については、町村制がしかれてより六十余年、町村にとつて大きな革命であつたわけで、従つて合併して効果顯著な町村は競つて合併を推進し、本

果も十二市百一ヶ町村に減少拡大しました。

本村は明治二十二年合併して大東白川村を建設し、先輩の方々が国の指導に基き、百年の大計のもと、村財政確立をめざし、基本財産を造成し、村有林を統合金山植樹による本村永遠の磐石の基礎を築き、各種施設の拡充整備を図られた先輩の偉業もようやく結実し、今日に至つたのであります。

我等はこの偉業に感謝すると共に、これを顕彰し、その偉業を後世に伝え、榮譽ある大東白川として、より一層住みよい郷土を建設し先賢諸氏に於ける責任と強い決意を必要とするものであります。

本村は、当初合併不能村とされ、その後周囲の状況より合併を勧奨されたのであります。然しながら、町村合併はあくまで住民の福

社増進されることを基盤とし、住民多数の意志に存するところでありまして、町村合併促進法の有効期間である九月末日を見送つたのであります。そして、現状維持の決意と共に、新たに年を迎えたのであります。村民の皆さんの協力によつて、教育、文化、社会福祉、保健衛生、産業経済および道路交通等、諸分野における諸施設諸事業の遂行を積

と部落のこと、村内のこと更に大きく政治のこと等、我々自身が解決しなければならぬ。その我々の意思と責任で、どこまでも通るような民主主義的な社会を生み出すことが、村造りの第一歩です。

我々農村の地域社会の問題を誰が解決してくれるでしょうか？ 役人でも、政治家でも、また指導者でもない。それは常に村民の自由な話し合いより生れる熱意と同じくする同志の結合により進展し、実行にうつされて行くところに新しい村が造られて行くものでありたいと思ひます。

今や町村合併によつて全国の町村は大団結し、政治力の結集により一せいに市や町の建設にかかりま

た。我々の東白川も生ぬる。従来の方を一新して新しく立ち上らなければならぬ。一人よがりではぬる。他は町村はどさん、進んでしまひます。川柳に「雪のある馬鹿に親父困り」と云うのがある。私共や村がこれにならないと思ひ、幸にして、を逸せず、村調とする村政を樹立し、村同を得て、して行きたい、常に和をもつる我が東白川村に先賢諸氏の民の皆様と手を拒まない存じます。

年頭にあたり、利を述べ、御挨拶にかゝ

## 年頭の御挨拶

### 東白川村議会議長

### 安江文一



明けましてお目出度う御座居ます。国運加勢と云う喜びの暮を送つて夜明けの様な日本が、国際社会へ飛び出した昭和三十三年を迎えま

今年は何年で、平和の鳩が一せいに飛び立つて何んとなく青春の血が躍如するようないかに努力する年だと思

静かに考えて見ると、今年より実行したいことがた

静かに考えて見ると、今年より実行したいことがた

# 年頭のことば

東白川村教育委員長

田口耕作

明けましておめでとうございませう。昭和三十二年の初頭に当り皆様の御幸福を祝福いたします。

天の恵みは一視同仁に新しき年を贈り、凍てついた大地には暖い日の光がふりそそいでいます。人も村もいろいろの問題も去年のまゝでありながら、自然の運命は何もいわずに新しい年を贈りました。昔の人が、

「元朝や神代のことと思はるる」或は「み雪ふる年の始めのめでたさは我もいにしえの人のこゝちす」とよんだ歌を引きあいに出すまでもなく、元旦は現代の中に住みながら、しばし現代を忘れさせ、先祖の時代、歴史の移り変りを憶わせず。飛だり跳ねたりする子供のように正月も楽しくなつたといふが、

「松の内わが女房にちよつと惚れ」と云つた具合にふるいものの中に、何か新しいぬち、新しいのちを感じとつています。

落葉した木の枝にも春が巡り、凍りついた土も暖かくなつていろいろな芽を出す様に、沈滞した姿の中にさえ吾々のいのちは脈々と動いています。古い校舎の小学校も、運動場を広くしたり、給食室炊事室を作つて、多くの子供の若い生命を培いつけて呉れる事でしょう。新年を迎え素朴な心になつて、無上なものえの帰依、氷遠なものえの思慕をしみじみと感じます。どんな母親でも子の健康を願われ、どんな父親でも子供の生長を願われる事でしょう。そうした気持ちを一人一人のものから、新しい時代にふさわしい大きな塊に育て上げましょう。

新しい時代に堪えしのび生き抜いて行ける子供に育て上げる為に、

読み、書き、ソロバンと云つた時代はすぎました。急げ者の酒のみ親父に毎日稼いで酒を買つて帰つた孝行息子の話が、修身書にのつた時代ともちがつて来ました。近く村の育友会が合同で講師を招き、會員の研修会を開かれると聞きま

した。出来るだけ多く御参加になり、御研修されますことを祈ります。

× ×

農村は封建的だと云われまふ。又後進社会と呼ばれまふ。色々理由もあることでしょうが徳川三百年のずい封健農政一即ち、  
「難ぎせぬ程にして気まゝをさせぬ」或は「ゴマの油と百姓は絞れば絞るほど出るもの」と云つた支配者の搾取哲学を實現するために巧みに仏教を利用して現世に望みを持たぬ様に百姓に々あきらめ々の人生觀を植へてつてしまつた。その長

い間の習慣がまだ農村から脱け切れず吾々の身辺に残つて居ることが、大きな原因の一つではないかと思ひます。人間性の形成に大切な宗教が百姓の人間性没収に悪用されて居る。何と云う皮肉なことでしょう。神も仏もたゞりほしめない。親鸞上人は「善人でも救われずまして悪人に於てをや」と云つて居ます。民主主義の時代になつて、個人の尊厳と、お互の協力の上によりよい農村をきずきふるべき年が暮れるのを、古い時代が暮れて行くのを、古い日を祈りたいものです。

## 初春を迎えて

東白川村消防団長 伊藤治雄

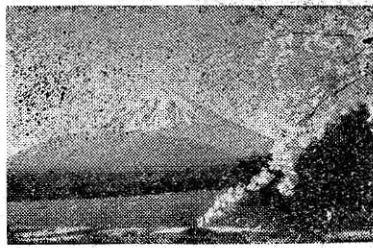
希望に輝く昭和三十二年

新春を迎え、皆様と共に謹んでお慶び申し上げます。かえりみみす過し一年間県下各地にも大火災の発生を見ましたが、幸に本村には一件の火災もなく無事越年出来ました。日頃の皆様の火元に対する格段の御留意の賜と、深甚なる敬意と謝意を表する次第であります。

御承知の如く、我が村の諸情勢は多事多難ことに経過の自立、生活の安定、合併問題等、前途に多くの課題が山積しております。これらの問題を克服して平和文化村を建設するに当り、我々消防の任務も極めて重く、その使命達成にはたゆまざる努力を重ねなければ決して郷土の治安と発展を圖ることは出来ないと

## 新年のごあいさつ

東白川婦人会長 服田すえ子



新しい春を迎えて、心よりお祝い申し上げます。本年もよろしく御指導のほどお願い申し上げます。初春の姿に添えて、

心も写す掛鏡かな  
幸福格言  
幸福の青い鳥は自分の近くにいる  
幸福は労力を伴う  
一節制は幸福の母  
一夫に才智、妻に忍耐あるは一家の幸福  
我が家は地球上最も幸福なる一部なり  
運は々々めぐると云つて「人生婦人の身となる勿れその循環して来るのを待つていたのは昔の婦人の運命観でありました」  
しか、運は決してめぐつて来るものではなく、自ら運は運はこぶくで自ら運び出さねばなりません。運び出し得るものなりと云う自信こそ開運の第一歩でこの自信をもつて動かす努力によつて幸運は運び出されるのです。めぐると思つ

て何時まで待つていてはめぐつて来ませんと考へて踏み出しから幸運が近づき、この一転心一番大切ではないか。

とかく婦人、他人の毀誉、は旧來の情弊、この転心の果、いには永久にまうに至るもの、つが如し、多少のびざるべからず」と語もあるように、従來の習を改め、決然として幸運の方途に向うためには、つらいこともないではありませんが、これを断ち切つて進んでこそ、幸運の門は開かれるのであつて「けむくとも後は寝安き蚊遣りかな」この難関を突破するの勇氣がなければ、到底幸福は運び出されるものではありません。

この幸福の鍵をかたく握りしめて、小さい鍵穴を見逃さぬようにすれば、第一の門も第二の門も次第に開け、幸運は刻々と近づき来るものと信じます。明るい社会になりますよう努力致しましょう。

年 頭 言



東白川農業協同組合長 安江専一

☆ 謹 賀 新 年

☆ 旧年中は格別の御支援を頂きまして厚く御礼を申し上げます。

☆ 本年も一層の御鞭撻と御叱声を仰ぎ、御期待に添い役立つ組合造りに役員一丸となり総力を以て努力致しますので宜敷く御願ひ申し上げます。

☆ 社会は親和を基として共同生活を営み、共存に依つて進歩し発展もする。

☆ 安定生活は各々其職業に誠心誠意専念努力し、自己の責任を全うすることにある。(村造りの信条)

☆ 旧年中は格別の御支援を頂きまして厚く御礼を申し上げます。

☆ 本年も一層の御鞭撻と御叱声を仰ぎ、御期待に添い役立つ組合造りに役員一丸となり総力を以て努力致しますので宜敷く御願ひ申し上げます。

☆ 社会は親和を基として共同生活を営み、共存に依つて進歩し発展もする。

☆ 安定生活は各々其職業に誠心誠意専念努力し、自己の責任を全うすることにある。(村造りの信条)

ことしの抱負

り、農業生産、農家経済の面にのみ止まらず、農家、農業者の精神的、又個人的に迄真剣に役に立つ団体としての力を發揮し、力を持つ組合であり且つ総合事業の完全に行う事の出来る、組織力が絶体で今後これを以て農村の興隆を決する。総合事業の運営なくして農村の農協と云い切れなく又農業者の組織団体とも云い切れない。

☆ 今全国六〇〇万農家の結束組織団体農協の強固なる進展を以てし、一大運動の展開されて居ります事も当然で、吾々は断固として

あります。こゝに於て第一が団結で、がっちりした内実と共に農業生産の躍進に拳村一致の心構が吾々に課せられた絶対の責任であります。

斯る点から農協は村当局の支援を基に不離一体総合経営事業の力強く推進を画し、東白川建設の一助たんと万全を期すべく念願し居ります。

と個々の生活面にも、其の度合に上下の差が著しくなつて、社会的落伍者をさえて

生む痛ましき事となり、共同生活を営む事に依り生存の成り立つ社会に不安定を来す事も想像され真に由々しき問題だと思ひます。

こゝに私共東白川住民とし農業者としては、此の点に深く留意し、農村東白川の不動の建設の大計を樹立し、万全の体制を確立して農協精神の相互の扶け合いに依り、真に安定生活の出来る、強固なる村造りが緊要となつて居ります。

農協の目的は相互扶助の原理を理念とする団体であります。

単協の組織力の一層の強化を図り日本農業の将来に備え、東白川農村の完壁を期し、農業生産を侵蝕せんとする大資本家、大商社に対抗出来る機能を確立し、農業者永年の安定経営に磐石の基礎を築き上げざる事を再確認すべきであります。

特に本年は東白川五、二〇〇の村民が総結集一丸となつて、一番一大尊起し村造りの時が参つて居ります。

御承知の通り村は自立活動の創の建設を以て、町村合併は見送る決意を致したので

貯蓄力の増強

信用事業の健全化は組合員の信頼感と、組織力の生命であります。農業経営の安定は先づ貯蓄で、貯金の指針が其村の健全度の指針だとさえ言われ組合は各種の貯金の増加に推進を続け現在小中学校の学童学生貯金を初めとして、長期貯金は定期積金から建物更生、生命共済等の計画貯蓄については、すでに最大の御協力を願つて居りますものゝ、今後全戸全員の御加入によつて、将来の安定経営に徹底を期し度いと考へて居ります。

指導事業の積極化

指導事業は特に本年度の積極的の事業として活潑なる活動を目論んで居ります。

村の大方針とする食糧、

養蚕、畜産の一貫した運営を確立し高度の生産増進に向つて、部落生産組合長会及び養蚕、畜産各関係役員の強力なる支援と相まつて計画即実現の成果を挙げざるに於て、理想郷東白川村の躍進に全力を注ぐべく待機し、それと共に各家庭に於て建設、計の許で、営農計画の樹立、営農貯金の実施、肥料の共同計算の実行は相関連して、農協運動の必須要件で健全農家経営の基盤である。人生は意識の革

に改め健全農村の確立を実現したい。

グループ活動の育成

農協運動の推進力として絶対的存在は、生産組合であります。本村に於ても一年発足以来着々と成績を上げて頂いて居ります事は、農村建設のため、農協発展のため誠に喜ばしき次第であります。目前には、新農村の建設、新生活の問題が待つて居ります。一層の御奮起と御協力を希望して止みません。

人生は限られて居ります。理想農村建設に向つて健全な身体と、健康なる精神を保持して今年に備えたいと存じます。

祝「成人の日」一月十五日



は時代、階級などによつて多少異つていたが、平安の初朝においては十二才と十六才が普通である。宮廷では特に十二才を佳令視した。武家時代に至つても元服の年令は、早例は五才であり、十五才までに行われるのを例とした。

明治元年十一月二十八日元服の年令を十五才と定め「今般官武一途に被仰出候に付いては、總て可相唱事」との御沙汰書があり、明治五年散髪勝手の令を出し、六年三月天皇みづから頭髪を切らせられたため、元服の古制が廃絶した。

成年者のみなさん

おとなになつたことを自覚し、立派な社会人として自ら生き抜こうとする決意も行われていた。未成年者は新たに、正しい社会の実現に邁進されることを期待し、用いないが、成年期になることを用いる。元服の年令と之を用いる。

成年者の由来

男子の成年を祝う式は、元服と称して古来より行われていた。未成年者は、冠帽の類を切らせられたため、元服の古制が廃絶した。

世情が、ようやく安定して、我々の村にある各種団体も一応軌道に乗つてそれぞれ分野にその目的達成に努めている今日我々青年団の活動を、いろ／＼回顧して見るに決して軌道に乗っていると言えない現状です。年々執行部が交代し、その度毎にその内容が変化して居ります。しかしながら、それはあくまで新しい時代への要求に従つているとは言えない。団員の中には相変らずの年中行事だと言ふ者さもある。又役員でも自分達で作つた事業が多すぎて忙しく困るといふ、こんな所に我々青年団の矛盾がありその矛盾の解決に一種の青年団活動の意義がひそんでいると言えよう。

青年団以外の部分的な同好会以外の団体では、その目的なり構成がやゝ趣きを異にしている。それは必ずその村になくてはならないような性格を、帯びていると云つても過言ではない。しかしながら青年団は現在個人の自由な意志によつて組織している。個人にどの様な理由があるか知る由もないが、現在当然青年団へ入ることの出来る、在村青年の中、五分の一だけが入団している現状である。

## 夢 ヲ ユ ハ ツ 初

東白川青年団長

安 江 益 良

奉仕団体から修養団体と變つて来た青年団青年学級は、それに参加し、その中心となる事が、この村に住みこの村の中心人物になる必要條件である今日、この村に住む青年は全部入団していなければならぬ。非青年団員に聴けば、現在の青年団に入るとは望ましいと考えるが、内容が

少しも面白くないから、と云う人が多分にある。この様な事を云われると、青年団役員として実に無力で申訳のない次第であるが、今一步深く考えて頂きたいのは、現在では与えられて動かされている青年団でなく、村中の青年が寄り集つて、話し合つて、自ら動き求め

て行く青年団であります。だから現在の青年団活動は一人一人の意志を綜合したものでなければならぬ。そこには活動が面白くないとか、不活潑と云うことは役員や幹部の責任とは云い切れないのである。一人一人の団員が、それ／＼最も意義ある活動を考え、面白く運営する熱意を結集することが、団活動を良くするたつた一つの方法である。現在百三十七名の青年団員は一応それぞれに、まともな活動を展開し、少くとも自己の向上に心がけて居りますが、今だに六百名余りの非団員がこの村にあり、これ等の人々が入団して活動してくれたならばこの東白川の次代を背負う為に、意義ある、たのもしい村造りが約束されることになりましょう。

どうか自分が大切だと思つたら、自分の家や、私達の村が大切だと考えられましたら、最大限の努力を払つて非団員の入団、又それに御援助下さる様御願ひ致します。

今年私の夢として全在村青年による青年団青年学級の運営、育成を望む次第であります。

「十年、二十年後の私たちの村を、より一層豊かな住みよい郷土となるためには私たちは、今何を考え、どんな構想をえがき、どのように進まねばならぬか……自分たちの村の将来について、どんな意見を発表しようではないか……」

〔内容〕 内容は随意であるが建設的なもの  
〔原稿〕 四百字詰原稿五枚以内(二千字以内)

### 工業調査の実施

昨年十二月末日現在で

毎年十二月容と経営の実態について近

末日現在で行く本調査を実施する。

なおこの調査は、今後の

を営む工場、事業場等を対象に行われることになり、

役場統計係では、すでに準備調査を終つたが、この調査によつて、十二月末日現在の各工場、事業場の従業員三名以下の場合と、四名以上の場合を、甲、乙の二種にわけて、年間の事業内

まごころもる

(一七)(五四)(五円)

北海道冷害救済見舞いおよび、歳末たすけあい運動。は皆さんの暖い同情によつて、一七五四五円

策の基礎資料として、国の統計法に基づく重要な調査であつて、この調査が個々直接に税金など利害関係に使用されることは、絶対に禁じられているので、各事業主は、安心して正確な申告をされるよう、お願い致します。

## 出生 一〇七名

本村の昨年度人口動態

本村の昨年度一ヶ年における出生は、男五四名、女五三名計一〇七名となり、一方死亡は、男一九名女一九名計三八名であつた。これは、三十年度にくらべて、出生八名、死亡四名がそれ／＼多くなつていて、川の人口(現在五二九七人)はどの位になるだろうか?

### 紹介さん組長のしのこと

大 口	古田 純
平	栗本 勇
下 親 田	渡辺計男
上 親 田	古田澄雄
中 通	安江勝造
神 付	村雪英男
加 倉 尾	安江 茂
中 谷	安江昭夫
西 洞	田口久市
曲 坂	安江もとの
日 向	安江順一
陰 地	桂川 実
枅 山	安江化平
黒 淵	高木文一
大 明 神	安江久二
柏 本	栗本力三
宮 代	安江 晃
大 沢	小池敬三
下 野	今井善造
久 須 見	古田甲子雄